

〈館蔵資料紹介〉

鴻池新十郎家大福帳

法量縦三〇・七糎×横三二・〇糎



甲子文久四年正月吉日

表紙には「大福帳」と書かれ、年代は両サイドに「甲子文久四年正月吉日」とある。裏には「鴻池新十郎」と墨書きされた立派な帳簿である。本綴仕立てで、紙質もよく、表裏ともに書くことができる。表裏表紙には、革紐が埋め込まれている。同家の「上下一統永統龜鑑改正基本帳」を見ると、大福帳は年々新調し、九枚重ねの五袋として、都合四五枚をもって一冊とするとしており、同帳の示す通りになっている。

口取も四カ所あって、諸方預け銀・利入・預り銀・諸払の構成になっている。貸付先は尾州様、藤堂和泉守様（津藩）、酒井若狭守様（小浜藩）、津軽蔵など大名貸が多く、貸付金利は、月四朱から月八朱ぐらいである。幕末期にもなると、返済できずに元金が滞り、年賦になったり、新たな貸付を望む大名と両替屋との緊迫した闘いが続いていた。

預り銀の口取には、大名・分家・別家・懇意な得意先や番頭などの使用人、菩提寺、村人の名前まで上がっている。金利もさまざまで、無利子もあれば、安い利息を付けたり、少し高めの利息を付けたりしている。この金利の高低は、新十郎との個人的な交際、経済的な有無などいろいろ考えられる。

諸払は、預り銀の利子の支払いが多い。

（翻刻解題 小田 忠）